

平成22年3月9日付け津市監査委員告示第1号公表分

(1) 白山総合支所

ア 地域振興課

監査の結果	平成20年度のふれ愛フェスタ事業補助金について、実績報告書等を見たところ、舞台看板・掲示板及びポスター・チラシの製作費、警備業務委託料等に当該補助金を充当していたが、事業主体であるふれ愛フェスタ実行委員会は、これら物品等の調達に当たって、見積合わせを行っていなかった。当該補助金額は550万円で平成21年度も同額を交付しているが、同実行委員会に対し、できる限り見積合わせを行い、補助金額（充当経費）の節減に努めるよう指導されたい。
措置の内容	平成21年度の事業は既に着手していたため、今後の物品調達に当たっては、見積合わせ等を行った上で調達するよう同実行委員会に指導した結果、平成22年度の事業については、見積合わせにより物品調達を行っている。

(2) 財政援助団体（所管部局）

ア サマーフェスタインひさい実行委員会（久居総合支所地域振興課）

監査の結果	補助効果の検証について、当該補助金は毎年度1千万円を交付しており、産業環境課（当時）は、経済的効果など補助金額に見合う効果があると説明しているが、同課及び同実行委員会は具体的な指標や手法に基づいて補助効果を測定していない。 補助金は税金等の貴重な財源で賄われていることから、補助効果を十分に検証しないまま、漫然と補助金の交付を継続することは問題であり、補助の必要性について、久居地域に限らない市民の十分な理解を得るための客観的な検証が常に求められる。 そこで、津市観光協会など関係団体等の協力を得るなどして、補助効果の客観的な検証方法を検討されたい。
措置の内容	補助効果を検証するため、平成23年8月6日に開催した「第50回サマーフェスタインひさい」において来場者アンケートを実施した結果、来場者1人当たりの消費額は約1,400円で、主に会場内及び会場周辺の小売店等での買い物によるものであった。来場者数が約6万人（主催者発表）であったこ

とから、大会当日には相当の消費があったと考えられるほか、花火大会の開催に必要な諸材料の購入や会場設営、警備業務等については、いずれも市内業者に発注しており、一定の補助効果（経済効果）があったものとする。